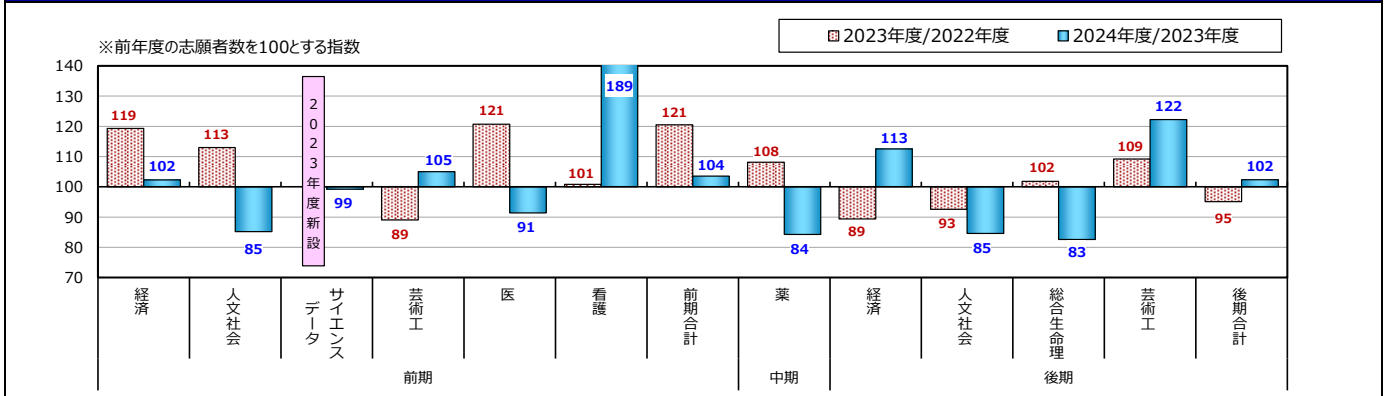


名古屋市立大：前期は3年連続増加、後期は前年度並、中期の薬は大幅減少 前期：+58人 中期：-200人 後期：+33人



主な入試変更点 第1段階選抜基準変更：医(医)<前>
 …「総配点550点中の概ね71%以上の者」を2023年1月18日に「総配点550点中400点以上(概ね73%以上)」の者を対象に募集人員の3倍に変更
 →「総配点550点中の概ね73%以上の者」を2024年1月17日に「総配点550点中407点以上(概ね74%以上)」の者を対象に募集人員の3倍に変更
 共通テスト：芸術工(建築都市デザイン)<前>…理⇒理2 国+歴公+数2+理+外→国+歴公+数2+理2+外
 <後>…歴公、理追加 国+数2+外→国+歴公+数2+理+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は58人(104)のやや増加で3年連続増加。後期は33人(102)の微増で前年度並だが、志願者数は4年連続で1,400人台。中期は薬だけの募集だが、系統への人気低下も影響して200人(84)の大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、4年制の(生命薬科学)(80)は2年連続増加の反動で大幅減少、6年制の(薬)(87)も2年連続増加の反動で減少。

<前期日程>

- 経済(102)**は、2年連続増加の反動はなく前年度並。
- 人文社会(85)**は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際文化)(113)は前年度減少の反動で3学科で唯一の増加。一方で、(現代社会)(70)は前年度50%以上の大幅増加の反動で大幅減少、(心理教育)(85)は大幅減少で2年連続減少。
- 新設2年目のデータサイエンス(99)**は、志願者数1人減少の前年度並。
- 芸術工(105)**は、前年度減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(産業イノベーションデザイン)(160)は大幅増加、志願倍率も2.5倍→4.0倍にアップ。(情報環境デザイン)(116)は2年連続大幅増加、特に<実技>(145)の大幅増加が目立った。一方で、(建築都市デザイン)(79)は共通テストの理科が2科目選択となった負担増の影響もあり、2年連続大幅減少、志願者数は4年ぶりに100人を下回った。
- 医(医)(91)**は、前年度大幅増加の反動で減少。なお、第1段階選抜基準について、過去3年間共通テスト終了後の水曜日に基準変更を発表したので、自己採点集計にはこの変更が反映されていないため、次年度以降も注意が必要。
- 看護(189)**は、前年度志願倍率2.1倍だったが、実質倍率は1.0倍だった影響で激増で3年連続増加。

<後期日程>

- 経済(113)**は、前年度減少の反動で増加。コース別では、数学選択の<Mコース>(128)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、英語選択の<Eコース>(96)はやや減少で2年連続減少。
- 人文社会(85)**は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(国際文化)(115)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(現代社会)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、2021年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。(心理教育)(77)は2年連続大幅減少、志願倍率も7.5倍→5.8倍にダウン。
- 後期のみ募集の総合生命理(83)**は、大幅減少で3年ぶりに減少。
- 芸術工(122)**は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(情報環境デザイン)(183)は前年度大幅増加に引き続き激増、(産業イノベーションデザイン)(126)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(建築都市デザイン)(91)は減少、志願者数は4年ぶりに100人を下回った。特に、<実技>(70)の大幅減少が目立った。